

令和元年11月8日(金)

場所：倉敷市立中庄小学校 上体育館

学級：4年A組34名(男子19名女子15名)

指導者：中尾 祐麻

児童支援者：秋岡 由紀子

1 単元名

「中庄ぐらしのアリエナイッティ」(表現運動)

2 児童の実態及び単元を通して身につけてほしい力(単元目標)

本学級の児童は、休み時間には鬼ごっこやボール遊びをするなど、体を動かして遊ぶことが好きな児童が多い。運動会のリズムダンスでは、音楽に合わせて生き生きと踊る姿が見られた。体育科「キャッチバレーボール」の学習では、チームで作戦を立てたり、アドバイスをし合ったりして友達と協働的に活動したり、友達と意見を出し合っって課題に向かって試行錯誤したりすることを少しずつ経験している。そして、友達の意見を取り入れたり、考えを認め合ったりすることができつつある。

本単元では、目標を「表現運動に進んで取り組み、表現の世界に没入して自分が表現したいイメージをもち、踊り方を工夫しながら、ひと流れの動きにして即興的に表現することができる。」と設定した。心身を解き放ち、表現の世界に没入することで、イメージを広げながら踊る楽しさを感じたり、友達と一緒に踊って協働的に学ぶ楽しさや喜びに触れたりすることができるようにしたい。

3 運動の特性と挑戦課題

表現運動は、自分の思いや考えを全身で表現したり、踊り方を工夫して広げたりすることがおもしろい運動であるとする。

そこで、本単元では「みんなと体を使って表現することができるかどうか」という挑戦課題を設定し、友達と様々な題材や状況に合わせて即興的に踊る学習を進めていく。運動のおもしろさを捉えるために、題材や状況が変化してもイメージをもたせることを大切にしていきたい。その中で、他者を意識して踊り、友達と協働的な学習ができるようにしたい。そうすることで、同じコトを共有し、踊っている本人も友達も、見ている友達もみんなが同じ時間や空間で学習し続けられると考える。

4 本実践の提案性(主張点)

複数の教科で横断的にカリキュラムを組むことで、表現することのおもしろさを十分に味わいながら、イメージや動きを広げ続ける力を高めることができるのではないかと考える。

幼いころ「ごっこ遊び」を楽しむ経験をしている児童が多い。自分たちで自由にイメージを広げ、なりきって遊ぶことは児童にとってとてもおもしろいことである。児童は、成長につれ「ごっこ遊び」から離れていくものの、実生活や教科学習の中で、イメージを広げたり、体を使って表現したりすることを学習している。しかし、体育科の表現領域だけで力を高めていくことに難しさがある。そこで、様々な教科と連携を意識した意図的なカリキュラムを組むことで、表現することをもっと楽しんだり、より多様に表現することができる力を高めたりすることができるのではないかと考えた。

例えば、国語科では、動物や植物になりきって書かれた詩を読んだり書いたりする学習を関連付けて行う。理科の、生き物の様子を特徴を捉えて観察する学習では、時期を合わせて学習することで相互に効果があるとする。また、学級活動や日常生活でも表現することを楽しむ経験を積んでいくことも大事にしていきたい。

5 運動のおもしろさを広げるための手立て

(1) 運動のおもしろさを共有するために

○ 挑戦課題を共有するための手立て

まず、ほぐしのリズムダンスや表現を通して、自由に表現するおもしろさを味わう。さらに、友達と一緒に表現する題材につなげていくことで、イメージがより広がったり、動きが変わったりするおもしろさを共有できるようにする。ほぐしの活動を通して、「みんなと体を使って表現することができるかどうか」がおもしろいということを理解し、挑戦課題として設定する。特に、中学年で大切にしたい「みんなと」表現することの意味を共有し、相手との関係によって動きが広がるよさや友達の動きや考えを認め合うよさを実感できるようにしたい。

○ 「問い」と「めあて」のもたせ方の工夫

第1時で、様々なくずしの要素が入った表現を取り入れる。「表したいものをどうやったら表せた？」と問い、体・友達との関係・位置・速さを手がかりとすれば動きを広げていくことができることを、知識として理解できるようにする。そして、「どうすれば動きを広げることができるかな？」と問うことで、児童はそれらを手がかりとして、表したい感じを表すために試行錯誤することができるようになる。と考える。「手がかりを使えば動きを広げることができる」という学び方を学んだうえで表現活動に取り組むことが、動きを広げ続けようとする意欲につながると考える。また、単元を通して問いは変えず、題材や状況変化を工夫することで、児童一人一人が手がかりを使ってイメージを広げ、めあてを変容させながら表現し続け、動きを広げていくことができるようにする。めあてをもちにくい児童には、友達の動きに目を向けたり、友達とかかわり合ったりすることができるような声掛けをすることでイメージをもちやすくし、めあてをもつことができるようにする。

(2) 運動のおもしろさを味わい続けるために

○ 主体的な試行錯誤を促すための手だて

- ・ 毎時間、最初に心身をほぐす活動を取り入れ、教師や友達と一緒に楽しく雰囲気を作ることで、思い切り踊ることができるようにする。
- ・ 体、友達との関係、位置、速さを手がかりに変化をつけて踊ることができるような題材を選んだり、状況を変化させたりすることで、動きを広げるための手がかりに気付くことができるようにする。そして、見つけた手がかりを共有し、掲示しておくことで、手がかりを使って動きを広げることができるようにする。
- ・ 空想の世界に引き込むための声掛け（リムトーク）をしたり、音楽を流したり、写真や絵を提示したりすることで世界に没入して表現することができるようにする。
- ・ 随時行う振り返りでは、「どんな工夫をすると、どんなことが表せたか」を問いかけることで、自分たちのよさを振り返ったり、友達のよさを共有したりして、動きの広げ方の質を高めることができるようにする。

○ 学習集団・学習形態の工夫（弱いつながりを大切にするための手立て）

- ・ 第1時では、友達とかかわりながら踊ることができるような題材を取り入れることで、自然に友達と踊る楽しさを実感できるようにする。
- ・ グループを固定せず、いろいろな友達と表現するよう仕組むことで、関係によって動きが広がるよさや、誰とでも表現できる楽しさを味わうことができるようにする。

(3) 学習評価の工夫

- ・ 教師が児童の変容を見取り価値付けることで、児童が自分の動きの広がりを実感することができるようにする。
- ・ 手がかりを提示することで、何を手がかりにして動きを広げることができたのかを振り返りやすくすることができるようにする。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
目標	題材の特徴を捉えて、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ることができる。	自己の能力に適した課題を見付け、題材の特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。	表現運動に進んで取り組み、友達の動きや考えを認め、誰とでも仲良く踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとしている。
評価規準	ア 表現運動の行い方を知り、身近な題材の特徴を捉え、全身で即興的に踊ることができる。 イ 友達の動きや状況の変化に合わせて、ひと流れの動きで即興的に踊ることができる。	カ 友達の動きや状況の変化に合わせて踊り方を工夫している。 キ 自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを受け入れたりしながら踊っている。	サ 進んで表現運動に取り組もうとしている。 シ 友達の動きや考えを認め、誰とでも楽しく表現しようとしている。 ス 友達とぶつからないように周りの安全に気を付けながら踊ろうとしている。